

DCS工法

NETIS登録番号：(旧) KK-040001-A

DCS Plus工法

DCS Small工法

DCS工法研究会

〒110-0014 東京都台東区北上野2-18-4 青山機工(株)内

TEL 03-3847-5522 FAX 03-5830-9514

URL <https://www.dcs-koho.jp> mail dcs-koho@aoyamakiko.co.jp

[正会員] 青山機工(株)、伊吹産業(株)、株伊予ブルドーザー建設、(株)サナース、新日本グラウト工業(株)、(株)人力、日特建設(株)、日本海工(株)、(株)本久

[準会員] (株)栄光、ディ・ケイ・コム(株)

[賛助会員] (株)島田工業、スミセ建材(株)、東京機材工業(株)、(株)丸山工務店



DCS掘削機全景



攪拌翼



DCS Small工法



大口径φ2500mm

概要

DCS工法（標準型、硬質型）、DCS Plus工法（大口径型、変位低減型）、DCS Small工法（小型機）は、セメントスラリーを対象地盤に注入しながら、DCS攪拌翼で強制的に混合攪拌することにより、改良体を造成する深層混合処理工法である。

DCS攪拌翼は杵型複合相対攪拌機能（内翼、外翼の回転方向、回転数が異なり、縦翼を有する形状）を有した攪拌翼で、対象土に対する「共回り・つれ回り現象」を解消することにより、地盤中に高品質な改良体を造成することを可能にした。

特長

1. 最大φ2500mmのコラム造成が可能
2. 「翼切り作用」とそれに伴う「練り込み作用」の併合作用による優れた混合攪拌力
3. 縦翼により、確実な改良径を確保
4. 土壌とセメント系スラリーの「混ぜ」と「練り」の併合作用でバラツキのない品質
5. 直径400mm以上のケーシングを使用し、高い剛性による優れた鉛直性
6. 側面・先端吐出の切替により効率的な施工
7. DCS工法の硬質型は硬質粘性土、高密な砂礫土、転石、ガラなどが点在する硬質地盤にも対応
8. DCS Plus工法の変異低減型は、縦翼端部のテーパカットした形状により、原位置土を押し出すことなく攪拌翼内に取り込み、余剰土をケーシングの補助翼で強制的に上部へ排土することにより周辺地盤への影響を低減
9. DCS Small工法は、小型のベースマシンで施工することによりコスト削減、機動力が向上

適用範囲

DCS工法

・標準型

改良径 : φ1000~2000mm

最大施工深度 : 36m

・硬質型

改良径 : φ1600~2000mm

最大施工深度 : 50m

DCS Plus工法

・大口径型

改良径 : φ2100~2500mm

最大施工深度 : 50m

・変位低減型

改良径 : φ1500~2500mm

最大施工深度 : 50m

DCS Small工法

改良径 : φ1000~1500mm

最大施工深度 : 11m

施工フロー

